



SOKA University Discover your potential

2022年度

# 事業計画

(2022年4月1日から2023年3月31日まで)

学校法人 創価大学

## ○学校法人創価大学 事業計画

### 1. キャンパス・財政計画

昨年度は、硬式野球部寮の建替え工事を完了し、旧寮の解体および跡地整備工事を実施した。また、駅伝部新学生寮の建設工事を開始した。その他、松風センター柔道場・剣道場の大規模天井改修工事、池田記念講堂の外壁耐震改修工事を完了した。本部棟では、自動火災報知設備・非常放送設備の更新工事、屋上防水改修工事等を実施し、キャンパス全体の安全面・防災面を強化する整備を行った。

経年劣化した設備機器の更新工事として、理工学部G棟のマルチメディア教室の映像・音響設備、本部棟などの照明設備、池田記念講堂および本部棟などの空調設備等の更新工事を実施した。また、朝霧寮共用部の改修工事の他、建物の補修・改修を実施した。

本年度は、以下の整備を行う。

#### (1) キャンパス整備計画

本年度のキャンパス整備、改修等の主な計画は以下のとおりである。

#### I. 駅伝部新学生寮の建設工事・別途工事

駅伝部新学生寮の建設工事を完了し、スポーツ関連機材・什器備品等の別途工事を実施する。

#### II. 特定天井等耐震化改修工事

大規模な天井をもつ特定建築物の耐震化工事を行う計画に基づき、本年度は、池田記念講堂の耐震化改修工事の準備として、第三者機関による天井評定取得のための設計業務を進める。

#### III. 外壁落下対策改修工事

タイル外壁の建物については定期的に調査および落下防止の対策が必要であり、本年度はニューロワール食堂の外壁落下対策改修工事を実施する。

#### IV. 滝山寮の解体工事

運用を終了した滝山寮の解体工事を実施する。

#### V. その他

昨年度に引き続き、教育学部棟マルチメディア教室の映像・音響設備の更新工事、池田記念講堂および本部棟などの空調設備更新工事、その他、必要に応じて各施設・設備等の整備、改修を行う予定である。

## (2) 財政計画

### I. 予算編成方針

「グランドデザイン 2021-2030」で掲げた戦略・計画や、キャンパス整備計画などを推進するための財政支出を行う。また、スーパーグローバル大学創成支援事業等については引き続き優先的に対応することとする。一方、諸施設の減価償却額や警備、清掃、システム関係等の各種委託費、維持費等の支出を見直しており、さらに本年度もコロナ関係経費を相当額想定しておかなければならない状況に鑑み、支出予算については継続事業の見直し、今後の将来計画に備えられる財務体質への改善を目指し、収支の改善に努める。

### II. 本年度予算の概況

本年度の事業活動収支予算の事業区分ごとの収支差額見通しは次のとおりである。教育活動収支については、収入の部で、学生生徒等納付金、寄付金が減少する一方、経常費等補助金、寮費収入を含む付随事業収入、雑収入では増加を見込み、合わせて前年度比 10.3 億円減の 135.8 億円程度の収入確保となる見込みである。また支出の部では、人件費が前年度比 2.6 億円増の 75.9 億円、教育研究経費は前年度比 8.4 億円増の 101.6 億円、管理経費も同 4.5 億円増の 24.8 億円を見込む。教育研究経費の増加要因は、主に新型コロナウイルス感染拡大の影響で前年度は支出の少なかった外国人留学生に対する奨学費や事業の縮小・中止により抑えられていた経費の増加、及び減価償却額の増加である。管理経費の増加要因は、解体撤去費（滝山寮）である。以上から、教育活動支出は前年度比 15.5 億円増の 203.2 億円を計上し、結果、教育活動収支差額は 67.3 億円の支出超過となる。

教育活動外収支については、受取利息・配当金により収支差額は 32.1 億円の収入超過となる。

教育活動収支差額と教育活動外収支差額を合わせた経常収支差額は、35.2 億円の支出超過を見込む。

特別収支差額は 10.6 億円収入超過の見込みである。

経常収支差額と特別収支差額を合わせた基本金組入前当年度収支差額は、26.6 億円の支出超過となる。基本金組入額は、駅伝部寮の新築工事や各所設備更新工事、スーパーグローバル大学推進事業基金への組入れなどで 5.6 億円を予定している。予備費はコロナ対策費などを含め、2.0 億円とした。当年度収支差額は 32.2 億円の支出超過となる。

これに基本金取崩額を折り込んだ翌年度繰越収支差額は 150.4 億円の支出超過となる。今後、収支改善へ向けたより一層の取り組みが急がれる。

●資金収支予算書

資金支出全体で 576.4 億円を見込んでいる。支払資金は期首と比較して 38.6 億円の減少を予測している。詳細は以下のとおりである。

資金収支予算書

2022年4月 1日から

2023年3月31日まで

(単位 千円)

収入の部			
科目	本年度予算	前年度予算	増減
学生生徒等納付金収入	7,635,800	8,161,810	△ 526,010
手数料収入	150,594	150,594	0
寄付金収入	3,712,800	2,838,833	873,967
補助金収入	2,488,188	2,468,409	19,779
資産売却収入	17,050,154	25,669,101	△ 8,618,947
付随事業・収益事業収入	895,056	834,240	60,816
受取利息・配当金収入	3,211,196	3,376,633	△ 165,437
雑収入	324,446	220,072	104,374
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	1,775,000	1,770,210	4,790
その他の収入	663,521	2,043,286	△ 1,379,765
資金収入調整勘定	△ 2,021,795	△ 2,031,149	9,354
前年度繰越支払資金	21,751,713	16,189,847	5,561,866
収入の部合計	57,636,673	61,691,886	△ 4,055,213
支出の部			
科目	本年度予算	前年度予算	増減
人件費支出	7,533,058	7,216,563	316,495
教育研究経費支出	6,620,113	5,876,453	743,660
管理経費支出	2,064,861	1,613,822	451,039
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	1,709,837	2,813,931	△ 1,104,094
設備関係支出	449,446	388,131	61,315
資産運用支出	21,105,000	22,074,763	△ 969,763
その他の支出	1,933,205	1,599,165	334,040
予備費	200,000	120,000	80,000
資金支出調整勘定	△ 1,868,600	△ 1,762,655	△ 105,945
翌年度繰越支払資金	17,889,753	21,751,713	△ 3,861,960
支出の部合計	57,636,673	61,691,886	△ 4,055,213

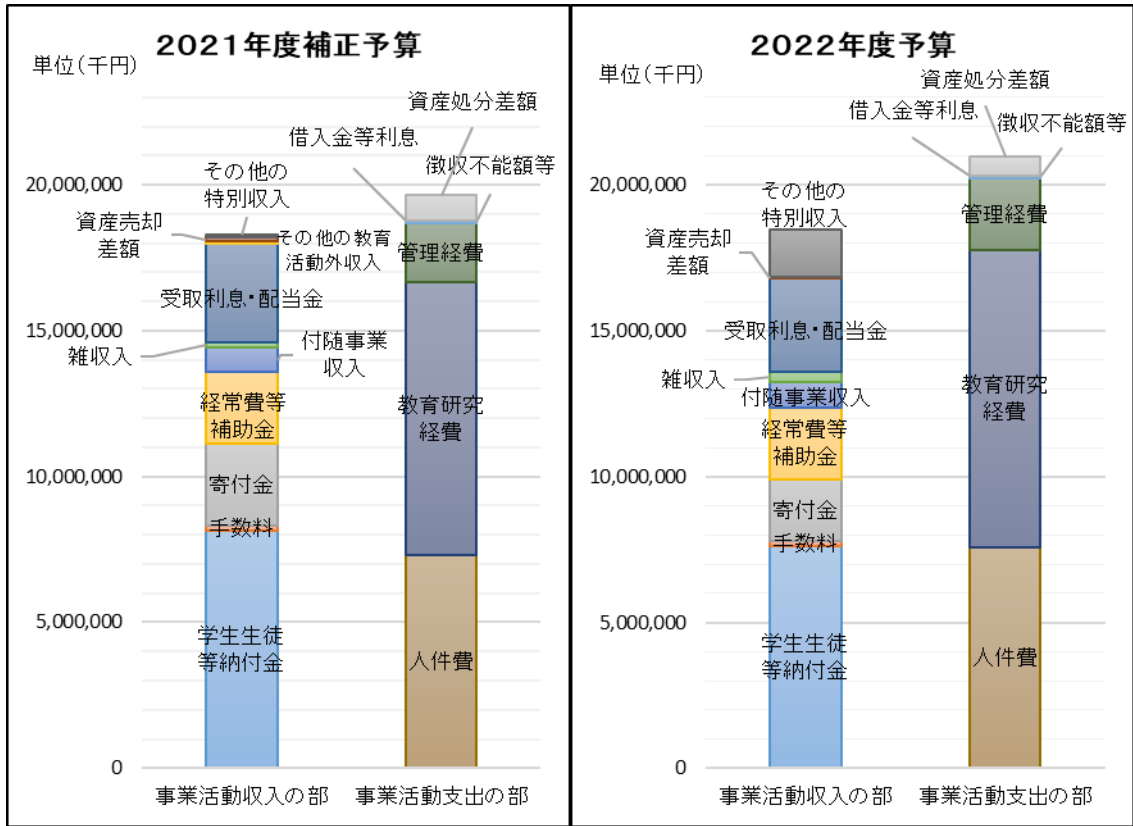
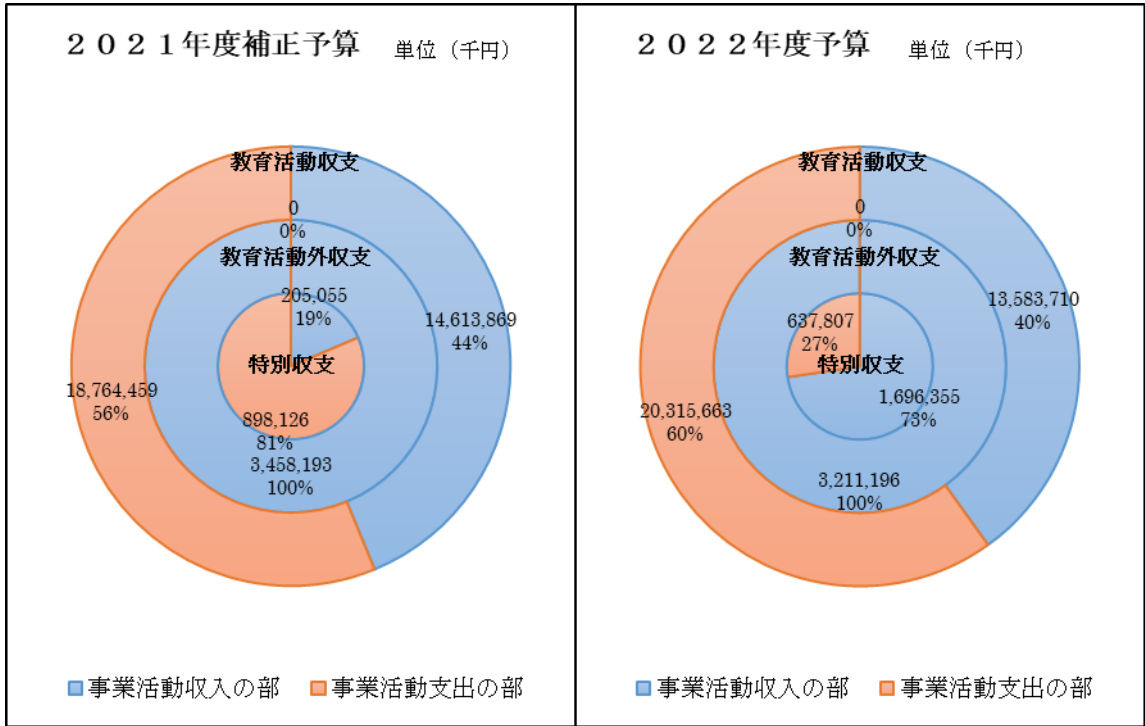
●事業活動収支予算書

事業活動収支予算書

2022年4月 1日から  
2023年3月31日まで

(単位 千円)

科目		本年度予算	前年度予算	増減
教育活動収支	収入の部			
	学生生徒等納付金	7,635,800	8,161,810	△ 526,010
	手数料	150,594	150,594	0
	寄付金	2,126,900	2,824,733	△ 697,833
	経常費等補助金	2,450,914	2,439,420	11,494
	付随事業収入	895,056	834,240	60,816
	雑収入	324,446	203,072	121,374
	教育活動収入計	13,583,710	14,613,869	△ 1,030,159
支出の部				
人件費	7,591,321	7,328,730	262,591	
教育研究経費	10,163,088	9,326,396	836,692	
管理経費	2,481,254	2,029,333	451,921	
徴収不能額等	80,000	80,000	0	
教育活動支出計	20,315,663	18,764,459	1,551,204	
教育活動収支差額	△ 6,731,953	△ 4,150,590	△ 2,581,363	
教育活動外収支	収入の部			
	受取利息・配当金	3,211,196	3,376,633	△ 165,437
	その他の教育活動外収入	0	81,560	△ 81,560
	教育活動外収入計	3,211,196	3,458,193	△ 246,997
	支出の部			
	借入金等利息	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0
	教育活動外支出計	0	0	0
教育活動外収支差額	3,211,196	3,458,193	△ 246,997	
経常収支差額	△ 3,520,757	△ 692,397	△ 2,828,360	
特別収支	収入の部			
	資産売却差額	55,181	126,966	△ 71,785
	その他の特別収入	1,641,174	78,089	1,563,085
	特別収入計	1,696,355	205,055	1,491,300
	支出の部			
	資産処分差額	637,807	896,359	△ 258,552
	その他の特別支出	0	1,767	△ 1,767
	特別支出計	637,807	898,126	△ 260,319
特別収支差額	1,058,548	△ 693,071	1,751,619	
予備費	200,000	120,000	80,000	
基本金組入前当年度収支差額	△ 2,662,209	△ 1,505,468	△ 1,156,741	
基本金組入額合計	△ 557,245	△ 943,290	386,045	
当年度収支差額	△ 3,219,454	△ 2,448,758	△ 770,696	
前年度繰越収支差額	△ 11,835,359	△ 9,500,888	△ 2,334,471	
基本金取崩額	16,400	114,287	△ 97,887	
翌年度繰越収支差額	△ 15,038,413	△ 11,835,359	△ 3,203,054	
(参考)				
事業活動収入計	18,491,261	18,277,117	214,144	
事業活動支出計	21,153,470	19,782,585	1,370,885	



## 2. 管理運営

### (1) 職員の業務評価制度

職員の評価制度（“SEEP”：Soka Encouragement and Evaluation Program）では、役職・勤続年数等に合わせた目標を設定し、その達成度合や改善等をもとに評価している。本年度は、評価者・被評価者を対象とした学内ヒアリングや評価方法の見直し等、制度の改善に取り組む。

### (2) 内部監査室、コンプライアンス推進室

本年度も内部監査室は監査計画に基づき各種の監査を行う。科学研究費補助金、スーパーグローバル大学創成支援事業、地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）などの公的資金監査、および対象を絞ったテーマ監査などを予定している。

コンプライアンス推進室では、競争的研究費等の運営・管理に関わる教職員に対するコンプライアンス教育の実施など、公的研究費の適切な管理のため、教職協働による一層の体制強化に取り組む。

### (3) 大学ホームページ等を通じたコミュニケーション活動の強化

国内外の受験生やその保護者をはじめ、ステークホルダーとのコミュニケーション活動の強化を目的に、大学・短期大学ホームページやソーシャルメディア、動画コンテンツ、広報イベント等を通じた情報発信に取り組む。また、教育成果や教学に係る取り組み状況など教育の質に関する情報、経営に関する情報についてはホームページを通じて積極的に公開する。その他、新たに定めたブランドガイドラインに基づき、一貫性および統一性のあるメッセージの発信をとおり、ブランディングの浸透に努める。

### (4) 認証評価の結果

創価大学では昨年度、公益財団法人大学基準協会による大学認証評価を受審し、本年3月に「適合」と認定された。改善課題として指揮された事項などについて、内部質保証推進委員会を中心に検討し、さらなる教育・研究活動の充実に努める。

創価女子短期大学では、一般財団法人大学・短期大学基準協会による短期大学認証評価を受審し、「適格」と認定された。引き続き自己点検・評価活動をとおり、教育の充実に取り組む。

## 3. 寄付事業

「創価大学創立 50 周年・創価女子短期大学開学 35 周年記念寄付事業」については、コロナ禍の厳しい経済状況にも関わらず、これまで卒業生・保護者をはじめ、多くの皆様よりご支援を頂戴している。寄付事業の目的である、1. 「創立 50 周年記念事業基本計画の推進」、2. 「スーパーグローバル大学創成支援事業の基金化」、3. 「創価女子短期大学の教育環境の整備」のため、募集期日の本年8月まで引き続き推進していく。また、本学の強化スポーツクラブである、硬式野球部・陸上競技部駅伝部・柔道部の合宿・遠征等の活動にかかる経費や、選手の練習施設・設備等の充実への支援を目的とした、「創価大学スポーツ振興寄付」を昨年度に設置した。

#### 4. 策定にあたっての関連情報

##### (1) 中長期計画

- ・ 学校法人創価大学中長期計画

<https://www.soka.ac.jp/about/managementplan>

##### (2) 認証評価

- ・ 2014 年度創価大学に対する評価結果（認証評価）

<https://www.soka.ac.jp/about/disclosure/evaluation/>

- ・ 2014 年度創価女子短期大学に対する評価結果（認証評価）

[http://www.jaca.or.jp/assets/files/2-1\\_jigyō/6\\_kekka/h26/14\\_h26\\_sokajoshi.pdf](http://www.jaca.or.jp/assets/files/2-1_jigyō/6_kekka/h26/14_h26_sokajoshi.pdf)



このたび馬場善久前学長のあとを受け、学長に就任することとなった。創価大学ほど教職員や学生が一体となって真剣に大学建設に取り組んでいる大学はない。本学の新たな歴史を開拓するため、教職員、卒業生、また支援者の方々、そして何よりも学生の皆さんと力を合わせて、「Soka University Grand Design 2021-2030」が掲げる目標の実現に全力を尽くす決意である。本学が直面するひとつひとつの課題に対し、解決への取り組みを果敢に実行することを目指し、新任の抱負として本年度の学長ヴィジョンを発表する。

本学は昨年度に創立 50 周年を迎え、次の 50 年へ向けてスタートを切った。2020 年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた 1 年であったが、学生、教職員の協力のもと、教育研究をたゆまず継続し、大きな成果を上げることができた。

教育においてはコロナ対策を取りながらオンラインも交えて十分な教育を提供し、その取り組みを通して通信教育部が e ラーニングアワードの「オンライン授業支援特別部門賞」を受賞した。研究面では、エチオピアの大学との国際共同研究「SATREPS-EARTH プロジェクト」がスタート。また糖鎖生命システム融合研究所が参画する「ヒューマングライコムプロジェクト」に関する覚書が締結された。さらに、アフリカ・ケニアのナイロビ大学の教育棟内に「創価大学ナイロビ事務所」を開設、本学の国際化にさらなる拠点を加えることができた。

一方、学生の活躍にも目覚ましいものがあった。令和 3 年司法試験に 12 名が合格し、10 名以上合格した私立大学の中で合格率 5 位を記録。またキャンパスベンチャーグランプリ東京大会で大賞を受賞、さらに「RoboCup Asia-Pacific 2021 Aichi Japan」で優勝するなど、数々のコンテストで優秀な成績を収めた。クラブ活動では、駅伝部が第 98 回東京箱根間往復大学駅伝競走で 7 位に入賞、3 年連続でシード権を獲得した。またパイオニア吹奏楽団が 3 大会連続で全国大会に出場し、銀賞を獲得した。さらに地域貢献活動でも文学部インターゼミ桑都プロジェクトが「シュリーマンでまちおこし」事業を展開し話題となった。本年度も多彩な分野で学生の活躍を期待したい。

「創立 50 周年記念事業」も予定通り盛大に行われた。昨年 4 月には『創価大学 50 年の歴史』を出版、その寄稿文で創立者は、「継承すべき本学の宝」として 1. 『人間教育』の尽きることなき慈愛の水脈」、2. 「いかなる苦難も勝ち越えゆく『創造的生命』の太陽」、3. 「人類を結ぶ『地球民族主義』のネットワーク」の 3 項目を挙げてくださった。10 月には本部棟エントランスホールにて創立 50 周年記念展「創価大学の歴史」がオープン、本学の人間教育の歴史を伝える展示となっている。

昨年 6 月 5 日から 14 日まで「世界市民教育」をテーマに「価値創造×SDGs」シリアルイベントを開催、また 10 月 23 日、24 日には「第 11 回池田大作思想国際学術シンポジウム」が各国をオンラインで繋ぎ盛大に開催された。

国際的評価としては、2020 年度にランクインした QS アジア大学ランキングにおいて、特に本学の国際性が高く評価され、総合 351~400 位（国内 58 位タイ）に上昇することができた。

国内では本学は昨年度、大学基準協会による3回目の認証評価を受審し、高い評価を得ることができた。本学の内部質保証体制には、いまだ改善すべき面もあるが、「学位授与方針」「教育課程編成・実施方針」「入学者受け入れ方針」の3つのポリシーを基本に不断の改革を進め、IR室を中心にデジタル情報を収集・活用しながら、教育・研究活動を改善するサイクルを着実に確立したい。

さて、本学は2030年に向けた次の10年を目指す新たな中長期計画「Soka University Grand Design 2021-2030」の取り組みを開始した。本学が人間教育の世界的拠点としてさらに飛躍的な発展を遂げられるよう、各項目を着実に遂行してまいりたい。

同計画では「価値創造を実践する『世界市民』を育む大学」とのテーマのもと、教育・研究・SDGs・ダイバーシティという4つの分野で多くの目標を掲げているが、中でも「世界市民教育」は大変重要な意味を持っている。国家間・民族間の分断が進む現在の世界にあって、創価教育は、青少年の可能性を開き平和な未来を実現する教育として、世界各地で注目され待望されている。牧口常三郎先生を源流とする創価教育の「創価」を冠する本学には、世界市民教育において世界をリードしていく使命がある。そのために、池田大作記念創価教育研究所や新たに開設された大学院教育学研究科を中心に国際共同研究を積極的に推進し、創価教育の学問的価値を確立するとともに、人間教育の世界的拠点として、有為な世界市民を数多く輩出してまいりたい。

文部科学省の大学入試改革に合わせて導入した総合型選抜「PASCAL入試」は、アクティブラーニングの手法を取り入れ、大学での学びへの資質を測定する新しい入試として注目を集めている。本年度は「PASCAL入試」の枠を150名へと拡大するとともに、創造的世界市民としての高い資質を持った受験生をより多く入学させるため、早い段階から高校生たちに本学の教育理念を理解させる育成型の「チャレンジプログラム」を導入し、志願者の増加をはかりたい。

本学は創立以来「学生第一」「学生のための大学」を標榜してきた。全学協議会に代表される学生参加の大学運営は、現在も本学の誇るべき特徴であり、認証評価においても高く評価された。本学に集い合った学生たちは、人間教育の慈愛の中で、ひとりも漏れることなく持てる力を最大限に発揮し、「創造的生命」を開花させてもらいたい。そうした世界市民を陸続と世に送り出すことにより、創立者が示された3つの宝を大きく発展させる飛躍の1年としてまいりたい。

## 1. 教育

### (1) 世界市民を育むカリキュラムの充実

本年度より共通科目と看護学部が新しいカリキュラムでスタートする。共通科目では、創立の精神を学ぶ科目を充実させるとともに、世界市民教育科目群を「平和・人権・環境・開発」と「サービスラーニング・リーダーシップ科目」に分けて学生の履修に役立てるようにする。他の7学部は、明年度からの新しいカリキュラムの準備にあてる。さらに、世界市民教育という観点から関連科目を体系化したカリキュラムマップを作成する。



(世界市民教育科目の充実を図る)

### (2) SDGs を推進する教育の展開

本年度のシラバスより、科目とSDGs17項目との関連性について記載している。学生がSDGsとの結びつきが強い科目を知り、計画的に履修できるようにするため、カリキュラムマップづくりも行う。明年度からのSDGs副専攻化に向けて各学部代表者からなるワーキング・グループで検討を進める。

### (3) データサイエンス教育の体系化

本年度より共通科目に「数理・データサイエンス・自然科学科目群」を設け、「データサイエンス入門」の全学必修化を行う。また、昨年度に文部科学省が推進する「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に本学が認定されたことを受けて、データサイエンス副専攻を軸に、入門レベルからデータを活用した演習レベルまで学生が段階的に学んでいけるような仕組みをつくる。



(データサイエンス教育を推進する)

### (4) 教育力向上と学生の成長を目指した取り組み

昨年度より3か年計画で全学展開しているティーチング・ポートフォリオを推進し、教員の授業の振り返りと教育力向上に取り組む。併せてティーチング・ポートフォリオの作成を通じて見えてくる各教員の教育課題を把握・検討し、学部として教育力向上に努める。また、学生による学習ポートフォリオや「学びの集大成」についても、学修成果の可視化を進める意味から、学部ごとに活用を推進する。

### (5) ディプロマ・ポリシーとアセスメント指標の見直し

全学と学部・研究科のディプロマ・ポリシーを見直し、学生の意見を踏まえた明快な表現にする。これに伴い学修成果の達成度を測定するアセスメント指標についても見直していく。また、

本学として認証評価を起点とした自己点検サイクルを確立し、全学をあげてさらなる教育改善に取り組んでいく。

## 2. 研究

### (1) 重点研究の推進

特色ある優れた研究や、SDGs 達成に貢献する学際的な研究を支援する「創価大学重点研究推進プロジェクト」を新設し、本学における重点研究テーマを創出することを目指す。また、国際学術論文の増加および競争的研究費の獲得の中核拠点として、「創価大学重点研究拠点制度」を新設し、これら独創的かつ先端的な研究を推進する研究施設を支援する枠組みを整備する。その他、本学の研究活動を学内外に広く発信し、研究者間の交流を活発化させることを目指して、国の研究業績システムである「researchmap」と、本学ホームページや教員業績システム等の連携を強化する。



(「ヒューマングライコム」プロジェクトを締結)

### (2) 国際競争力の強化

国内外の研究機関と共同で進めている大型研究プロジェクトを加速させ、研究成果の幅広い普及に繋げ、国際的評価を高める。また、「Soka University Grand Design 2021-2030」で掲げた、研究者ネットワークの組織化を目指した「Soka University Fellow (仮称) 制度の創設」や、海外で実績のある研究者を招聘する「客員教員受け入れによる国際共同研究支援」について、各制度の実施に向けた協議を推進する。

### (3) 外部資金獲得の強化

研究の大型化を促すため、科研費の大型種目に応募した研究者に対して助成する制度を新設する。また、戦略的な競争的研究費の獲得を目指して、セミナーの充実や、申請書類のチェックを強化するなどの機能強化を行う。また、競争的研究費に係る国の制度改善への対応を万全に行い、研究者が意欲的にこれらの対象事業に応募できる環境整備を行う。その他、文系分野の研究者や研究組織が、中型・大型の研究費に積極的に応募できるよう、制度設計などの環境整備を行う。

### (4) 研究基盤の強化

本年度より実施している個人研究費の算定基準および傾斜配分制度等の点検・見直しを行い、実効性を高める。また、研究時間の確保に向けては、導入を検討している URA (リサーチ・アドミニストレーター) について、本学の研究環境に応じた採用準備を行う。さらに、研究データの管理・利活用についての体制整備を進める。



### (5) 適正な研究活動の推進

研究活動における不正行為を防止すべく、全専任教員に対し、定期的に研究倫理教育教材「eAPRIN」の受講を促し、受講確認を行う。また、研究者倫理に関する規範意識の養成を目的として、本年4月より博士前期課程ならびに修士課程の全大学院生（専門職大学院を除く）に対するeラーニング教材を用いた研究倫理教育の必修科目を導入した。同時に、コンプライアンス教育の受講対象者を再確認し、学内における研究費不正使用防止に関する啓発活動を強化していく。

### (6) 創立者の思想・実践および創価教育に関する研究を推進

池田大作記念創価教育研究所は、創立者の思想・実践および創価教育の学術的研究を推進するために、以下の事業を推進する。1.「第1回 世界市民教育シンポジウム（テーマ：“Restoring Learning to Daily Living: Global Citizenship and John Dewey”）」の開催」、2.「世界市民教育に関する国際共同研究の推進」、3.「創価教育に関する刊行物の発刊のための翻訳等の推進」、4.「創立者の語らいポータル構築の準備」。さらに、創立者の思想・実践、および創価教育の実践の記録を体系的に収集・整理・保存し、研究資料としての活用をはかっていく。

## 3. SDGs

### (1) 全学 SDGs プロジェクトの推進

SDGs 達成の推進に向けて、貢献度の高い取り組みや将来有望な取り組みを「創価大学 SDGs グッドプラクティス」として採択し、支援を行う。また、学内の SDGs に関する認知度等を調査する「SDGs アンケート」の実施や SDGs 達成に向けた取り組みについて、本学のホームページや広報誌「SUN」、「SDGs レポート」などで学内外に公表する。



(全学をあげて SDGs を推進)

### (2) SDGs 目標達成に貢献する人材”の育成と、”SDGs 学生・専門家・実務家ネットワーク”の構築と拡大

SDGs 達成に貢献する人材ネットワーク・ロスター制度の構築を目指して、具体的な運用方法など、実現化に向けた検討・体制整備を行う。また、SDGs 達成に貢献する人材の育成、専門家・実務家とのネットワークの構築を目的に、「第2回 SDGs 達成に向けた実践者と学生・教員の対話・ネットワーキング会合」を開催する。



(昨年12月に第1回対話会合を開催)

### (3) 国連諸機関との連携強化

国連開発計画 (UNDP)、国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)、国連食糧農業機関 (FAO)、国際熱帯木材機関 (ITTO) でのインターンシップ事業や平和講座の実施など協力事業を推進する。また、難民高等教育プログラム (RHEP) の受け入れおよび修了者の進路支援を推進する。さらに本学平

和問題研究所で難民研究プロジェクトを発足させ、UNHCR と連携しながら研究会などを開催する。ユネスコスクール支援委員会の活動としては、海外のユネスコスクールとの連携を強化するとともに、地域に開いた SDGs 講座等を定期的で開催し、ユネスコスクール関東ブロック大会を本学で開催する。そして、情報集約と発信の強化として、国連アカデミックインパクトの SDGs 推進活動の情報を集約するためのプラットフォーム構築を進めていく。

#### (4) キャンパス運営における SDGs 主流化・エネルギー計画の策定

昨年4月に気候非常事態宣言を発出し、2050年のカーボンニュートラルキャンパスを目指すこととなった。本年度は2025年の策定を目指し、カーボンニュートラル化への取り組み方針や達成へ向けたロードマップの検討を進める。また、地域の自治体や企業等と連携した本学の取り組みも検討する。

### 4. ダイバーシティ

#### (1) グローバル化の推進

本年度は国内外諸機関と連携して、「価値創造×SDGs」Week（6月）、在京南部アフリカ諸国外交団（SADC）による連続講座（春学期・共通科目「地域研究B」）、「世界市民教育シンポジウム」（10月）等を予定している。オンラインによる日本語教育については、海外在住の学生への授業等のほか、海外交流校からのニーズにも応え提供していきたい。

#### (2) スーパーグローバル大学創成支援事業の継続・発展

2回目の中間評価で「S」を獲得したのを受け、9年目となる本年度は、次の最終年度に向け、外国人学生の募集・受け入れや本学学生の派遣について、オンラインを活用した「国際協働オンライン学習プログラム（COIL）」の活用などにより積極的に教育交流を推進する。

このCOILは文部科学省が昨年度に形成し、本学も複数のプロジェクトに参画している「大学の国際化促進フォーラム」のプロジェクトにおいて、関西大学と共にモジュール（科目群）の提供を開始した。また、プロジェクト

「国際交流プログラムの効果の客観的評価テスト開発及びその普及」では、本学は連携校として採択（幹事校・広島大学）され、今後国内をはじめ各大学・諸機関と幅広く連携し展開していく予定である。



（グローバル化への取り組みを推進）

#### (3) 男女共同参画の取り組み

これまで本学の男女共同参画事業の推進および研究力の増強のため、「創価大学男女共同参画推進センター」においてさまざまな取り組みを行ってきた。今後これを発展的に「創価大学ダイ

バーシティ・インクルージョン推進センター」に改組する。より多様性豊かなキャンパス環境の構築に取り組んでいきたい。

#### （４）社会人等の受け入れ推進

各種調査等によると、産業界は大学が提供する社会人向けの高度な教育に期待を寄せているといわれている。本学においては通信教育部で培ったオンライン教育の成果を生かし、「日本語教育」「データサイエンス」「AI」など、これからの社会で必要とされるプログラムを検討し、リカレント教育の体制を整える。

本学は、一般財団法人大学・短期大学基準協会による令和3年度短期大学認証評価の結果、適格と認定された。その中でも「特に優れた取り組み」として9点に渡り、認定されたことは、これまでの本学の「教育の質保証」と主体的な「改革・改善」への高い評価とすることができる。更なる自己点検・評価活動を実施し、さらに質の高い教育を目指していきたい。

本年度は、開学40周年に向けて掲げた「短大中期計画」の2年目に入る。さらなる飛躍の年として教職学一体で取り組んでいく。この中期計画では「女性（あなた）が輝く未来を拓く」とのテーマを掲げ、2年間の学びを通して、ひとりひとりが自分らしく輝く土台を作り、自身の未来を拓くことができる教育に取り組む。そして、女性が輝く社会を拓く人材を輩出していく。

昨年度より「輝く女性育成」と「SDGs」の推進という二つの柱を軸として取り組みを開始した。「輝く女性育成」の推進では、女性の生き方をテーマとした企画セミナーやワークショップ・勉強会などを開催した。また、「SDGs」の推進では、授業やゼミナールでの学びをもとに様々な学生の提案が生まれた。特に「生理の貧困」については、関東の女子大では初めて生理用品の無料ディスペンサーを設置し、学生主体の挑戦の一步を記すことができた。

英語能力の向上を目指す E-Swans（英語特別プログラム）では目標の TOEIC730 を突破する学生も増加し、実績を残すことができた。資格取得においてもビジネス特設クラスを中心に上級資格も数多く取得し、協会より団体・個人でも優秀賞を受賞するなど、確実に教育成果を上げることができている。



(学生主体の SDGs 推進)

また、学生の活躍という点でも、大学コンソーシアム八王子主催の「学生発表会」に向けて、ポスターデザインで最優秀賞に採択され、八王子市内各所に掲示された。学生発表会では、7チームが賞を受賞するなど地域貢献に活躍した。「八王子学生 CM コンテスト」では、審査員賞に輝き、学生の感性が高く評価された。その他、各種コンテストへ挑戦し、「社会人基礎力育成グランプリ」では、地区予選大会で最優秀賞を獲得し、全国決勝大会では「基礎力大賞」を受賞。2年連続3度目の日本一の栄冠に輝くことができた。

コロナ禍にあっても逞しく挑戦する本学学生の成長の姿を強く感じる事ができた。

本年4月から確かな実力を身につけ社会で輝く女性を育成するための新たなカリキュラムがスタートする。昨年度の実績の上に、さらなる飛躍を遂げるために、中期計画で掲げた「教育・研究」、「学生支援」、「入試・広報」、「進路・就職」の4つの柱と、それらを支える「経営基盤」の構築をもとに、取り組みを進めていきたい。



コロナ禍という未曾有の状況が続いているが、今後も最大の注意を払い、創立者池田大作先生の示された建学の指針に適う「創価の女性教育の城」を目指して、どこまでも学生第一で、教職員一同、力を合わせて取り組む決意である。

## 1. 教育・研究

社会で輝く女性の育成を目指した教育内容・制度の充実のために、以下の4点について、さらなる改革を進める。

中期計画に定め、昨年度より取り組んできた「輝く女性育成」と「SDGs」の二つの推進軸を、さらに発展させ、全学をあげて推進する。

### (1) カリキュラム改革

昨年度の改革で、新カリキュラムが決定し、本年4月より実施の段階に入る。教養科目については、グローバル社会における女性のエンパワーメントを目指した科目群と位置づけ、授業内容の改変や新たな科目を設けている。具体的には、ライフデザイン科目群と地球市民科目群を設け、ライフデザイン科目群には女性としての生き方・働き方を学ぶ「女性のためのライフプランニング」、「ワークライフバランス入門」、地球市民科目群にはSDGsやグローバル社会の動向を学ぶ「SDGsと経済社会」、「発展途上国の政治と経済」などを新設した。



(女性の活躍を目指し、教育内容を充実)

専門科目については、多彩な進路(就職・進学・留学・編入学等)に合わせ、従来のカリキュラムを発展させ、さらに4つの科目群の中に選択必修科目を設けて、集中的に専門知識を身につけることができるようにした。また「FP初級・中級」「税と社会保障」など、社会のニーズを踏まえた科目を新たに設けている。

本年度は、新カリキュラムに基づく授業実施を着実に進め、教育内容の定着をはかりたい。また、進路に応じて効果的に学べるよう、履修モデルを整理していきたい。

また、「輝く女性育成」と「SDGs」の二つの推進については、課外でのセミナーやワークショップなども実施し、さらなる充実を図っていく。

### (2) 海外語学研修と資格取得教育の充実

まず、海外語学研修については、昨年度、フィリピン・ミリアムカレッジ語学研修とオタゴ大学語学研修はオンラインで実施することができた。本年度は、状況によってオンラインも活用し、SUA 短期留学プログラムを含めて、現地での開催を進める。



(オンラインで開催された海外研修の様子)

さらに実りのある研修にするため、英語力の向上に加えて、国際ビジネス学科の専門的な学びとの連動性を確

保できるようにしたい。海外語学研修の前後で履修すべき科目を明確にし、連動した学びの仕組みを整理し、英語力をさらに身につけることができるようにしていきたい。また、SUA 短期留学プログラムの授業内容等の改変、充実などを目指していく。

次に、資格取得教育の充実については、授業科目として、ファイナンシャルプランナーに関する科目を設けた。土曜講座とも連携して、さらなる資格取得の推進を図っていく。

また、TOEIC、MOS など学習成果を測る指標としての資格取得の推進を検討していく。また、例えば、ホテル、ブライダル、医療事務など社会のニーズに合わせた資格講座の充実を目指して新たな資格の導入を検討する。

### (3) 教育制度の改革

本年度は、クォーター制の導入、授業時間の見直し（100分制）など、集中的に学び、教育効果を上げる環境整備の検討に着手する。

### (4) 教員の研究力の向上

昨年度は、研究活動ハンドブックの作成、研究費不正使用防止計画を制定した。本年度は教員の研究活動の活性化をはかり、研究環境の整備と外部研究資金獲得への挑戦を進めていく。また、教育・研究業績を評価する仕組みの整備、研究費の傾斜配分について検討する。

## 2. 学生支援

豊かな教養を身につけ、充実した学生生活を送るための支援の拡充を進める。具体的には以下の3点となる。

### (1) SLS(スチューデント・ライフ・サポート) セミナーの充実

課外で実施している「SLS(スチューデント・ライフ・サポート) セミナー」について、本年度は、さらに内容等を充実させ、多くの短大生が豊かな教養を身につけられるように実施していく。例年開催の内容に加え、「輝く女性育成推進企画セミナー」と共催して、短大生だけでなく、短大卒業生・東西の創価学園女子生徒にもオンライン等を利用して参加できる機会を提供していきたい。

### (2) 寮生活支援

充実した寮生活が送れるように寮生ひとりひとりの支援を充実させ、教職員による寮生活アドバイザー制度の試行実施を検討してきたが、本年度は、コロナ禍の状況を見つつ、具体的に実施できるようにしていきたい。

### (3) 障害学生の支援体制の整備とサポート

本年度は、新たに制定した「創価女子短期大学障害学生支援規定」、「創価女子短期大学障害学生支援室管理運営規程」に基づき「障害学生支援室」を開室する。障害を持つ学生の修学および学生生活についての相談、授業における合理的配慮の申請を受け付けるなど、支援をさらに整備・

充実させていく。

### 3. 入試・広報

首都圏の大学や短大を巡る受験者の減少は顕著なものとなってきている。本学にとって多様な学力や高い意欲を持った人材の獲得は最重要の課題である。本年度は受験者の増加に全力をあげて取り組んでいきたい。

従来の入試制度を分析し、入試制度の見直しおよび改善を図ってきた。特に本年度、新たに導入した同窓生（子女を含む）推薦入試制度を広く周知し、実施していききたい。この2年、変更してきた入試制度の定着を図っていききたい。

入試広報については、ホームページをさらに充実させ、発信できるコンテンツを増やしていく。ソーシャルメディア等のさらなる活用など、情報の発信力を高め、本学の情報が受験者、卒業生にいきわたるよう取り組んでいきたい。オープンキャンパスの充実、日常的な受験相談に対応できる体制の整備を進めていく。また、各分野で活躍する卒業生特集小冊子（MY STORY）を発刊し、その活用をはかりたい。

### 4. 進路・就職

地域・社会の各分野で活躍する人材を育むためのキャリア支援の充実を目指す。具体的には、インターンシップの推進、地方Uターン支援の強化、他大学への編入学の支援に取り組んでいく。

本年度はインターンシップに参加する学生の増加をはかり、就職活動、進路決定が円滑に進む仕組みについて検討する。地方Uターン支援については、地方の就職先企業の情報収集と開拓をさらに進める。また、他大学への編入学の支援として論文や面接対策をさらに充実させていく。

Discover your potential

SOKA University